

令和7年の新設住宅着工戸数(概要) ～建築着工統計調査報告(令和7年計)～

国土交通省 令和8年1月30日公表

【概要】

令和7年の新設住宅着工は、**持家、貸家及び分譲住宅が減少**したため、**全体で減少**となった。

🚩 試験で狙われる引っかけポイント

- 持家・貸家・分譲住宅の「すべてが減少」→「全体で減少」という因果関係の表現が出題される

【1. 総戸数】

- 令和7年の新設住宅着工戸数は**740,667戸**。前年比では**6.5%減**となり、**3年連続の減少**。
- 新設住宅着工床面積は**56,885千㎡**、前年比**6.6%減**、**4年連続の減少**。

🚩 試験で狙われる引っかけポイント

- 着工戸数は「3年連続の減少」、着工床面積は「**4年連続の減少**」→連続年数が異なる!ここが最頻出の引っかけ
- 戸数の減少率(6.5%)より床面積の減少率(6.6%)がわずかに大きい

【2. 利用関係別戸数】

①持家

- 令和7年の持家は**201,285戸**(前年比**7.7%減**、**4年連続の減少**)

②貸家

- 令和7年の貸家は**324,991戸**(前年比**5.0%減**、**3年連続の減少**)

③分譲住宅

- 令和7年の分譲住宅は**208,169戸**(前年比**7.6%減**、**3年連続の減少**)
 - マンションは**89,888戸**(同**12.2%減**、**3年連続の減少**)
 - 一戸建住宅は**115,935戸**(同**4.3%減**、**3年連続の減少**)

🚩 試験で狙われる引っかけポイント

- 持家のみ「**4年連続の減少**」→貸家・分譲住宅・マンション・一戸建はすべて「3年連続」(1年の差に注意!)
- マンションの減少率「**12.2%**」は一戸建「4.3%」の約3倍 →マンションの方が大幅に落ち込み
- 貸家(324,991戸)が最多 →持家(201,285戸) < 分譲(208,169戸) < 貸家の順

📊 利用関係別 まとめ一覧(令和7年)

区分	戸数	前年比	連続年数
全体合計	740,667戸	6.5%減	3年連続の減少
持家	201,285戸	7.7%減	4年連続の減少
貸家	324,991戸	5.0%減	3年連続の減少
分譲住宅	208,169戸	7.6%減	3年連続の減少
マンション	89,888戸	12.2%減	3年連続の減少
一戸建住宅	115,935戸	4.3%減	3年連続の減少

※持家のみ4年連続(他は3年連続)。マンションは最大の減少率。

出典:国土交通省 建築着工統計調査報告(令和8年1月30日)